

上中通信

令和5年度重点目標 互いを尊重し、聴き合い、学び合い、育ち合う生徒の育成

学校だより 7号
令和5年10月26日
発行：上湧別中学校

「学び」と「勉強」

湧別町立上湧別中学校 校長 綾部 雅一

「二十一世紀は学びの時代である。学ぶことと生きることと闘うことが同義となる時代が到来していると言ってよい。」

これは、本校で研究を進めている「学びの共同体」の提唱者・佐藤学氏（東京大学名誉教授）の言葉です。この言葉が記された著書の中では、「勉強」という言葉を「学び」に転換する必要があると説かれています。この2つの言葉にはどのような違いがあるのでしょうか。

調査結果1 （令和5年度 全国学力学習状況調査 生徒質問紙結果より）

学校の授業時間以外に、普段1日当たり1時間以上、勉強をしている	上中	9.5%
	全道	59.0%
	全国	65.8%

調査結果2 （令和5年度 前期学校評価 生徒アンケート結果より）

学習内容の定着や苦手を克服するために、家庭学習に取り組んでいる	1年生	72.2%
	2年生	63.8%
	3年生	60.0%

文科省のアンケートに「勉強」という言葉が使われているように、日本の学校教育において「学び」は長い間「勉強」と呼ばれてきました。「勉強」の元来の意味とは、「無理をすること」「元々無理があること」です。受験や就職などというゴールを達成するために他の人と競争し、勝ち抜くために無理をして学ぶ「勉強」が、長い間「学び」を意味する日常用語として定着してきました。「勉強」には、ゴールを達成すれば終わりという意味合いを強く感じます。しかし、変化が激しく予想のつかない現代においては、ゴールを達成すれば終わる「勉強」よりも、絶えず次のゴールを想定し自分自身を向上し続ける「学び」の価値がますます高まっていると言えます。

調査結果1で、上中生は全道・全国に比べて「勉強」は少ない結果となりました。その一方で、調査結果2のとおり、自分で「学習内容の定着や苦手を克服するため」という目的のもと、6～7割の生徒が「主体的に学ぶ」家庭学習に取り組むことを大切にしています。本校では、こうした「学び」を大切に、さらに伸ばしていきたいと考えております。

家庭における学習時間そのものが圧倒的に少ないということから、学校での学びが「勉強」ではなく、本当の意味での「学び」になっているかどうか、ということも今後の課題の一つです。

調査結果3 （令和5年度 前期学校評価 生徒アンケート結果より）

ゲーム機や携帯電話を時間に節度をもって利用している	1年生	71.1%
	2年生	58.8%
	3年生	70.9%

調査結果3では、6～7割の生徒がゲームやSNSなどを、時間に「節度」をもって利用しているという結果が出ています。3～4割の生徒は際限なく利用しており、家庭での「学び」を阻害する要因となっていないか、心配があるところです。ネット利用は悪ではありませんが、自分自身でコントロールできる範囲で使うという「節度」も大切にしていきたいところです。

学校祭 合唱とステージで完全燃焼

本年度の学校祭は新型コロナウイルスによる制限がなく、合唱も舞台発表も予定したすべてを実施できました。当日は多くの保護者の皆様にお越しいただき、生徒の様子をご観覧いただきました。お忙しい中ありがとうございました。取り組みに使える期間が限られているので、どの学年もかなり苦労した様子でしたが、知恵と工夫で頑張っていたようです。当日は午前には舞台発表、午後に合唱、そして最後は全校合唱で感動のフィナーレを迎えました。生徒会役員のみなさん、学級でリーダーとして仲間を引っ張ったみなさん、そして学校祭を頑張った全校生徒のみなさん、本当にお疲れ様でした。これからの生徒会行事は2年生中心の新体制です。後期はまだまだ始まったばかり、全校生徒で新生徒会を盛り上げていきましょう。





2年生「職業とわたし」講演会

10月25日(水)にキャリア教育の一環として「職業とわたし」講演会が実施されました。湧別町中高一貫教育として例年開催される行事で、町内3校の中学生が集い合同で授業を行いました。図書館司書や販売員、農家や美容師など地域の方に講師をお願いし、その職業のおもしろさ・やり甲斐・苦労など、様々なお話をいただきました。生徒たちは真剣な眼差しで興味深く話を聴き、大変勉強になったようです。自分の将来について考えを深めることは、自分自身を知ることにつながりとても大切なことです。今回の勉強が大きなきっかけになるといいですね。



